

7. 長寿命化計画の継続的運用の方針

7.1 情報基盤の整備と活用

本計画を推進する上では、学校施設における情報の蓄積が重要となります。そのため、学校施設の建物基本情報や工事履歴、修繕履歴、日常点検や業務委託による各種点検履歴を毎年度更新しながら一元管理することとします。蓄積した学校施設情報は、予防保全型のコスト算定や継続的な施設管理に使用し、今後の改築や改修計画に活用します。

7.2 推進体制の整備

公共施設等総合管理計画を踏まえ、各学校と連携しながら維持管理を行い、必要な改修に取り組む必要があります。しかし、他の公共施設の維持管理、本町の財政状況、学校の統合再編など、担当部署のみで対処することが難しい課題があります。今後は、教育総務課が中心となって関係部署と協議・調整を行い、本計画の取組を進めていきます。

7.3 フォローアップ

本計画に基づき、学校施設整備を進めていくためには、計画（Plan）→実施（Do）→評価（Check）→改善（Action）のPDCAサイクルを確立することが重要です。

計画（P）：施設の現状を把握した上で、それを踏まえた実施計画を策定する。

実施（D）：実施計画に基づいた改築・改修、日常的な点検を実施する。

評価（C）：実施効果を検証・評価し、改善点を整理する。

改善（A）：次期実施計画に改善点を反映する。

また、本計画は、学校施設改修等の優先順位を設定するものであり、実施にあたっては、町全体の財政計画の中で実施年度および事業費を精査するものとします。さらに、事業の進捗状況・点検結果を反映し、社会情勢や本町の財政状況等を踏まえた上で、必要に応じて見直しを図るものとします。